

## トンガ王国大使が小学生に講演

在トンガ王国日本国大使館の石井哲也特命全権大使(以下、石井大使)が黒潮町を訪問し、2月5日(火)に南郷小学校の全校児童を対象に講演会が行われました。

今回の訪問は、一昨年の「世界津波の日高校生サミット in 黒潮」や、昨年より婦人連合会・PTA連合会を中心に始動した「ランドセルプロジェクト」におけるトンガとのつながりがきっかけで実現したものです。

同サミットの記念碑がある大方あかつき館や砂浜美術館、佐賀地区の津波避難タワーなどを見学しました。

講演会では、南郷小学校の4年生から黒潮町の紹介があった後、石井大使が日本とトンガのつながりや大使の仕事について話しました。



講演を行う石井大使

講演を聞いた児童は、気になったことを質問したり、感想を発表しました。

## 第2回被災地OARAIと未災地KUROSHIOの交流勉強会

1月27日(日)、28日(月)に本庁3階大会議室にて、茨城県大洗町と黒潮町の交流勉強会が開催され、1日目のシンポジウムに47人、2日目のワークショップに31人が参加しました。

この交流勉強会は、東日本震災で被災した茨城県大洗町と、今後南海トラフ地震で被災する可能性のある黒潮町、それぞれが経験と課題を議論する場として設けられ、第1回目は昨年5月に大洗町で開催されました。

1日目の午前中、黒潮町役場の担当職員が大洗町などからの参加者に津波避難タワーなどを案内した後、午後からシンポジウムがスタートし、黒潮町からは防災の取組や活動について伝えられました。大洗町からは、実際の被災体験や、被災後の町の様子を写真を交えながら、「まず命が助かること、全てはそれから」と災害を乗り越えたからこそ伝えたい思いを熱く話しました。また、その後の復興やまちづくり、海岸ボランティアについて説明がありました。発表後は、それぞれの町の代表者により

観光と防災について意見交換が行われました。

2日目に開催されたワークショップでは、参加者が防災ゲーム「クロスロード」について学びました。クロスロードとは、カードゲーム形式の防災教材で、正解のない質問を自らの問題として考え、「YES」か「NO」のカードを選び、意見交換するというもの。参加者は6チームに分かれ、黒潮町編のクロスロードの質問を作成し意見を交わすことで、学習を深めました。

一般社団法人大洗観光協会の大里明会長は、「津波避難タワーを見たが、それだけでなく避難訓練なども積極的に行っていて、黒潮町の人は意識が高いと思った。大洗町は被災し、地震前と後で変わったこと



大洗町による講演

もあるが、芽吹くものもあつた」と前向きに経験を話しました。

## 砂浜美術館が日本版DMOへ

NPO 砂浜美術館(以下、砂浜美術館)が昨年12月、日本版DMOの「地域DMO」に四国で初めて登録されました。

「日本版DMO」は、戦略の策定や実施の調整など、観光による地域づくりの舵取り役を担う法人のこと。砂浜美術館は、平成28年8月に市町村単位で観光地域づくりを行う「地域DMO」の候補法人として登録され、この程、登録法人となりました。

1月25日(金)には、黒潮町観光ネットワークが、観光庁観光地域振興課長やDMO推進機構代表理事を招き、関係者ら約50人によるDMOの勉強会を行いました。

今後砂浜美術館は、地域の多様な関係者を巻き込みながら、ネットワークや町と連携し、観光によるまちづくりを一層力を入れて取り組んでいくこととなります。



観光ネットワーク・森田俊彦会長による挨拶

によるまちづくりを一層力を入れて取り組んでいくこととなります。